

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
国際メディカル専門学校		平成14年1月9日	白倉 政典		〒950-0914 新潟市中央区紫竹山6丁目4番12号 (電話) 025(255)1511		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 国際総合学園		昭和32年10月10日	池田 弘		〒950-0914 新潟市中央区紫竹山6丁目4番12号 (電話) 025(255)1511		
目的	古来より伝統医学は継承と発展を続け、現代では鍼麻酔の効用やWHOによる適応疾患の認定によって伝統医学を科学的に解明していこうという気運が高まっている。伝統医学の中でも鍼灸は、現在伝統的な治療での有効性に加え科学的論拠に基づいた治療範囲が広がりつつけている。その中で、鍼灸を用いてスポーツ・美容・高齢者医療については特に広まりつつある。鍼灸師は、局所や全身の診察を行い整形外科疾患に限らず全身の診察治療を行える国家資格である。本学では、伝統医学のもつ有効性に加えスポーツ・美容・高齢者医療等幅の広い範囲を学び、医療技術者として様々な分野で適応でき、伝統を継承し発展させる人材を育成する。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
医療	医療専門課程		鍼灸学科		平成19年2月22日 文部科学省告示第 二十号	—	
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2400	1540	0	0	0	860
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
90人		26人		7人	10人		17人
学期制度	■前期:4月1日～9月20日 ■後期:9月21日～3月31日			成績評価	■成績表 有 ■成績評価の基準・方法 期末の試験、出席率等による。		
長期休み	■学年始:4月上旬 ■夏季:7月下旬から8月下旬 ■冬季:12月下旬から1月下旬 ■学年末:3月中旬から4月上旬			卒業・進級条件	学科カリキュラムに規定する 卒業に必要な単位をすべて 修得すること。		
生徒指導	■クラス担任制 有 ■長期欠席者への指導等の対応 面談等			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア、地域貢献活動、 町おこし活動への参加 ■サークル活動 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院、治療院 ■就職率 ^{※1} 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} 88.9 % ■その他 進学や聴講生になる者が多く同年度の就職者が少なかった。 (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)			主な資格・検定等	はり師国家試験 きゅう師国家試験		

中途退学 の現状	■中途退学者 1名 平成28年4月1日 在学者 33名 (平成28年4月1日 入学者を含む) 平成29年3月31日 在学者 32名 (平成29年3月31日 卒業者を含む)	■中退率 3.1%
	■中途退学の主な理由 病気療養のため ■中退防止のための取組 校全体、学科単位での動気付け、個別ガイダンスの実施。	
ホームページ	http://www.icm-net.jp/publicinfo.html	

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

鍼灸学科では病院・治療院・スポーツ・美容等々いずれの職場においても活躍できる鍼灸師の育成を目指している。現在の鍼灸師を取り巻く環境では患者とのコミュニケーション、病気に関する知識、伝統医学に関する知識と技術、コンピュータに関する技能が不可欠である。本学科ではこれらに必要な知識を学べるようカリキュラムを編成している。また、学んだ知識・技術をもとに医療現場での実際の業務を体験しながら、必要な知識の定着を図るとともに現場実践での新たな気づきから、目標とする人材像への今後のアプローチを図る上でのモチベーションを高めるよう実習をカリキュラムに取り入れている。時代の変化に即し、より専門的な能力を育成するため、教育課程の編成において鍼灸業団体・治療院等との密接な連携により、より実践的な職業教育の質の確保に取り組む。そのため、専門分野に関する医療業界全体の動向、鍼灸に関する知識と技能を有する関係者から構成される委員会を組織し、意見を聴き、教育課程の編成の参考とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年3月31日現在

名前	所属
高野 栄	新潟県鍼灸マッサージ師会
中澤義則	中澤はり灸院
近 千明	ちあき鍼灸室
白倉政典	国際メディカル専門学校(学内委員)
佐藤秀幸	国際メディカル専門学校(学内委員)
小野泰生	国際メディカル専門学校(学内委員)
佐藤徳昭	国際メディカル専門学校(学内委員)
岩村英明	国際メディカル専門学校(学内委員)

(開催日時)

- 第1回 平成26年4月9日 18:00～19:30
- 第2回 平成26年9月3日 18:10～19:30
- 第3回 平成27年3月18日 18:00～19:30
- 第4回 平成27年9月16日 18:00～19:30
- 第5回 平成28年3月23日 18:00～19:30
- 第6回 平成28年9月14日 18:00～19:30
- 第7回 平成29年3月22日 18:00～19:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

病院や治療院等の求める人材育成要請を十分活かし、鍼灸師にとって必要な実践的・専門的な能力を育成するため、実習において病院や治療院等との密接な連携を通じ、実践的な職業教育の質の確保に努める。実習に当たっては、学校で学んだ知識をもとに現場実践的な専門知識・技術、社会人としてのマナー、社会性を身につけること、鍼灸師としての職業観を得ることを主たる目標に置く。目指す分野で求められる能力と自己の現在の能力との差を知るなど、自己分析を通して目標とする人材像に近づくよう学習モチベーションを高め、今後の学修に活かす。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	実際の患者様の施術を通して今まで学習してきた全ての知識や技術の総まとめを行う。それらを発展させ臨床的なテクニックや技術を学びとる。ここでは、ティーチングではなくコーチングとして学生が主体的に学ぶことを主とする。「学ぶ」の原点は、「真似ぶ」であり、術者を先ずは観察してそれを模倣し、少しずつ自分のものへと変えていく。	ちあき鍼灸室 高野鍼灸院

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校の教員は専門分野において、最新の実務の知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行うことが期待されている。そのため、法人本部、学校内および外部機関との連携の下、職業に関連した実務に関連した知識、技術および技能ならびに授業および学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的な研修機会を確保する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年3月31日現在

名 前	所 属
野水宏一	新潟県立吉田病院 事務長
田村泰生	医療法人愛広会 人事部長
仲野隆一	社会福祉法人愛宕福祉会 人事部長
池井淳子	元 国際メディカル専門学校看護学科副校長
佐藤桜子	国際メディカル専門学校 校友会会長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.icm-net.jp/publicinfo.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.icm-net.jp/publicinfo.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科) 平成27年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			臨床心理学	人間の行動を理解する上で、重要な心の動きについて学習する。鍼灸の臨床でも増えている心身症・神経症などの疾患にも対応できるよう、カウンセリングの基本を学び、各自のパーソナリティーを出せる医療面接ができ、人間の心の動きを基に適切なコミュニケーションがとれるようにする。	2後	30	2	○			○			○		
○			統計学	統計の基礎を学ぶ。どのようなデータを、どのように比較検討することでデータから何を読み取ることが出来るのかを理解する。実際の鍼灸の論文を用いて、そのデータから何が読み取れるのかを学習する。また、統計手法を用いて如何に実験デザインを作るか、アンケート調査をどのようにデザインするかを学び、自分でも論文デザインができるようにする。	2前	30	2	○			○				○	
○			英語	既に学んだ伝統医学基礎用語と解剖・生理学・診察の用語を英語で学びなおしながら、その部位・機能を忘れていないか確認しながら学習する。読解や会話の例文を用いて、より実践的な学習を行う。	2後	30	2	○			○				○	
○			中国語	中国語の基礎から学び、他授業でも中国語が必要となるため最低限の基礎を学習する。あくまで伝統医学のエキスパートとして必要な中国語能力を学ぶ。基礎能力を身に付けることで、会話についても自習が進められる基盤を作る。	1後	30	2	○			○				○	
○			栄養学	人体の機能維持活動の基本である、摂食のメカニズムから栄養を如何にとるかを学習し、医療技術者としての素養からスポーツ領域での栄養指導等を学ぶ。	1後	30	2	○			○				○	
○			認知心理	人間はどのように学び、発達していくのかを学習する。その中で、医学教育の基礎として認知心理を学び「学習する方法」を学び今後専門の学習を進めるにあたり各自に適した学習方法を模索する。患者教育という点も踏まえて、学習のメカニズム等について学ぶ。	1前	15	1	○			○				○	

○		情報処理	本学科が重要視する、自然言語と人工言語のうちの一つとして人工言語である情報処理技術を学習する。情報処理のベースとして、Word・Excel・PowerPointを順番に学び最低限の情報処理能力を身に付ける。ネットワーク上から鍼灸関連の情報を自由に収集できるようにする。また、この情報処理能力を身に付けたうえで、今後の各教科のレポート作成やプレゼンテーションを行うスキルを身に付ける。	1 前	45	3	○			○		○
○		解剖学Ⅰ	人体の仕組みと成り立ちを学習し、個々の仕組みを理解しそれぞれの関連性を系統的に学び、専門医学学習上の基礎を築く。まとめで、解剖実習を行い標本にて確認する。鍼灸臨床の中で解剖学は、基礎の分野でも重要な位置を占める。解剖学の知識が乏しければ、経絡経穴・鍼灸実技・手技療法等々全ての科目の学習がむずかしくなる。この点を踏まえて各部の名称と機能を学習し今後の学習のための基礎を作る。解剖学Ⅰでは、解剖学基礎・骨格系・筋系	1 前	60	4	○			○		○
○		解剖学Ⅱ	人体の仕組みと成り立ちを学習し、個々の仕組みを理解しそれぞれの関連性を系統的に学び、専門医学学習上の基礎を築く。まとめで、解剖実習を行い標本にて確認する。鍼灸臨床の中で解剖学は、基礎の分野でも重要な位置を占める。解剖学の知識が乏しければ、経絡経穴・鍼灸実技・手技療法等々全ての科目の学習がむずかしくなる。この点を踏まえて各部の名称と機能を学習し今後の学習のための基礎を作る。解剖学Ⅱでは、神経・脳神経・循環器	1 後	45	3	○			○		○
○		解剖学Ⅲ	人体の仕組みと成り立ちを学習し、個々の仕組みを理解しそれぞれの関連性を系統的に学び、専門医学学習上の基礎を築く。まとめで、解剖実習を行い標本にて確認する。鍼灸臨床の中で解剖学は、基礎の分野でも重要な位置を占める。解剖学の知識が乏しければ、経絡経穴・鍼灸実技・手技療法等々全ての科目の学習がむずかしくなる。この点を踏まえて各部の名称と機能を学習し今後の学習のための基礎を作る。解剖学Ⅲでは、消化器・呼吸器・内分泌器・(局所解剖)・感覚器・生殖器・泌尿	2 前	45	3	○			○		○
○		生理学Ⅰ	生物が示す生命現象を理解し、様々な生命現象が協調と統制によって人体生体活動が維持されていることを理解する。特に、生理学を学んだ後に病態生理・臨床医学各論とつながるように暗記に頼らず理解をして、最終目標である鍼灸臨床で患者に説明できるような活用できる知識を習得する。生理学Ⅰでは、基礎、循環、呼吸、消化と吸収、排泄、内分泌	1 前	60	4	○			○		○

○		生理学Ⅱ	生物が示す生命現象を理解し、様々な生命現象が協調と統制によって人体生活動が維持されていることを理解する。特に、生理学を学んだ後に病態生理・臨床医学各論とつながるように暗記に頼らず理解をして、最終目標である鍼灸臨床で患者に説明できるような活用できる知識を習得する。生理学Ⅱでは、神経、筋、運動、感覚、体温、栄養と代謝	1 後	45	3	○			○	○						
○		生理学Ⅲ	生物が示す生命現象を理解し、様々な生命現象が協調と統制によって人体生活動が維持されていることを理解する。特に、生理学を学んだ後に病態生理・臨床医学各論とつながるようにあまり暗記に頼らず理解をして、最終目標である鍼灸臨床で患者に説明できるような「活用できる知識」を習得する。生理学Ⅲでは、生殖・生長老化、生体防御、ホメオスタシスと生体リズム	2 前	15	1	○			○	○						
○		病理学概論	病因と病変を理解し、疾患の病態把握の基礎を作る。ここでは、病理学総論を中心として学習する。病理学各論は、病態生理・臨床医学各論の中で学習していく。	2 前	30	2	○			○	○						
○		臨床医学総論	現代医学的視点で、臨床に必要な診察法と治療に関する知識を学習し、疾病の治療にあたってその病態の判断と迅速かつ適切な処置を学習する。 1. 概論 2. 診察の方法と応用 3. 検査法 理化学的検査	2 通	60	4	○			○	○						
○		病態生理	1年次と2年次で学習した、解剖・生理・病理を基に代表的な疾患の病態把握を行う。臨床医学各論で細かな病態の学習を行うが、その前に今まで学習してきた基礎を確認し病態を把握できる能力を確認する。	2 後	15	1	○			○	○						
○		臨床医学各論Ⅰ	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。	2 通	45	3	○			○	○						
○		臨床医学各論Ⅱ	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。	3 前	60	4	○			○	○						
○		臨床医学各論Ⅲ	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。	3 通	45	3	○			○	○						

○		リハビリテーション医学	<p>病院内での鍼灸臨床において、リハビリテーションとの連携が頻繁となってきた。リハビリテーションの概念から学び、将来病院臨床で理学療法士と連携をとれるよう患者へのアプローチの仕方を学ぶ。</p> <p>①リハビリテーション医学の理念と方法 リハビリテーションの概要 医学的リハビリテーションの概要 障害の評価 ②医学的リハビリテーション</p>	2 後	30	2	○		○	○				
○		公衆衛生学	<p>公衆衛生学の概論を学ぶ。最新のデータに基づき、医療技術者として知っておくべき基礎的な教養を学習する。</p>	3 前	30	2	○		○	○				
○		関係法規	<p>医療に従事する中で、重要な法律について学習する。様々な科目の中で、あん摩マッサージ指圧はりきゅう師に関する法律に関しては、1年次より触れてきているが体系的には3年次になって初めてとなる。医療従事者として、知っておかなければならない法律と罰則を理解し遵法できるようにする。</p> <p>①法とは何か ②医事法規と医療制度 ③医療法 ④その他医療従事者に関する法律 ⑤薬事法 ⑥衛生関係法 ⑦社会福祉関係法 ⑧社会保険法 ⑨あん摩マッサージ指圧はりきゅう師に関する法律</p>	3 前	15	1			○	○	○			
○		医療概論	<p>医療人としての基礎教養として、医学史・現代医療制度・医の倫理について学習する。</p>	1 後	15	1	○		○	○				
○		鍼灸理論 I	<p>鍼灸の専門分野での最も初歩の科目となる。鍼灸臨床を行う上で必要な、道具の名称・扱い方・消毒の仕方等を学ぶ。更に、作用や治効理論の基礎を学び鍼灸不適応疾患についても学習する。衛生学・関係法規の必要最低限の知識は、ここで学習する。</p>	1 前	15	1	○		○	○				
○		鍼灸理論 II	<p>なぜ鍼灸での治療効果があり、どのようなメカニズムでその治療効果があがるのか学習する。また、臨床で患者さんに質問された際、平易な言葉でそのメカニズムや論拠を説明できるようにする。</p> <p>① 鍼灸療法の一般治効理論 ② 関連学説（サイバネティックス・ホメオスターシス・ストレス学説等々）</p>	2 通	60	4	○		○	○				
○		伝統医学概論 I	<p>古来より継承と発展を続けてきた、伝統医学の哲学観に立脚し、伝統医学の生理・病理・病因を学び、それを踏まえて診断と治療方法へと結びつける。</p> <p>1年次は、伝統医学の哲学観から生理・病理・病因病機を学び、中国の教育でいう「中医基礎」を学ぶ。科目名称は、「伝統医学概論・伝統医学基礎」とする。</p>	1 通	45	3	○		○	○				

○		特別授業Ⅱ	国家試験直前における試験対策を主とする。全科目を横断的に学習し、試験直前期の総まとめとする。	3 後	45	3	○			○		○		
○		鍼灸実技Ⅰ	主に毫鍼・ひねり艾を中心として鍼灸の基礎的な実技を行う。 1年次は、消毒衛生概念の学習から四肢を中心とした代表穴への施術を行い、1年次終了時には大凡毫鍼では自分の思った角度や方向に打てるようにする。	1 通	120	4				○	○		○	
○		鍼灸実技Ⅱ	顔面・体幹部等危険部位での施術も安全に行えるようにする。またパルス刺鍼や灸頭鍼も行う。	2 通	120	4				○	○		○	
○		経絡経穴実技Ⅰ	経絡経穴概論の学習と合わせながら、その部位の確認を行う。特に、解剖学で学習人体のランドマーク部位を具体的に触れながら取穴位置の確認を行う。 経絡経穴実技Ⅰ：十四経の取穴	1 後	30	1				○	○		○	
○		経絡経穴実技Ⅱ	経絡経穴概論の学習と合わせながら、その部位の確認を行う。特に、解剖学で学習人体のランドマーク部位を具体的に触れながら取穴位置の確認を行う。 経絡経穴実技Ⅱ：奇経・経筋・経外奇穴	2 通	30	1				○	○		○	
○		手技実技Ⅰ	施術する際の基本的な身体の触れ方や筋肉や取穴等々について徒手手技を通して学習する。またここでの学習を通して指をトレーニングしていく。 手技実技Ⅰ：指圧・あん摩	1 後	30	1				○	○		○	
○		手技実技Ⅱ	施術する際の基本的な身体の触れ方や筋肉や取穴等々について徒手手技を通して学習する。またここでの学習を通して指をトレーニングしていく。 手技実技Ⅱ：マッサージ（パウダー・オイル）	2 後	30	1				○	○		○	
○		応用実技Ⅰ	臨床医学総論およびリハビリテーション医学で学習した身体診察および理学検査を行えるようにする。	2 後	30	1				○	○		○	
○		応用実技Ⅱ	鍼灸実技ⅠⅡで学習した内容を基に、効かせる鍼灸として補瀉実技や伝統医学的な診察術を学ぶ。	2 後	30	1				○	○		○	
○		応用実技Ⅲ	整形外科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解し鍼灸施術を行う。	3 通	90	3				○	○		○	
○		応用実技Ⅳ	問診から施術までの一連を動作を繰り返し行う事で、治療の流れを身につける。また、鍼灸臨床で必要となる実際に使える手技の学習を行う。	3 通	90	3				○	○		○	

○		臨床実習	<p>実際の患者様の施術を通して今まで学習してきた全ての知識や技術の総まとめを行う。それらを発展させ臨床的なテクニックや技術を学びとる。</p> <p>ここでは、ティーチングではなくコーチングとして学生が主体的に学ぶことを主とする。「学ぶ」の原点は、「真似ぶ」であり、術者を先ずは観察してそれを模倣し、少しずつ自分のものへと変えていく。</p>	3通	90	2				○	○		○	○	○
○		インターンシップ	<p>1~2年次で学習してきた内容や、接遇等で研修した内容を実際の治療院等の現場で実践の場として実習する。</p> <p>臨床実習では附属はりきゅう治療院で実習を行うが、インターンシップでは厚生労働省指定科目外として、附属治療院以外に出ることで、それぞれの治療院が行っている運営方法に臨機応変に対応できる能力を身につける。</p>	3前	50	1				○		○			○
○		コミュニケーション技法	<p>社会人としての基本的なマナーを身につける。</p> <p>① 身だしなみ ② 挨拶③ 名刺交換④ 電話応答 等々</p>	1後	20	1	○				○				○
○		総合実技Ⅰ	<p>手技実技Ⅰで学習したあん摩マッサージ指圧等の手技療法の復習や、授業では扱わなかった実技練習を行う。手技を行いながら、解剖学的ランドマークの確認や経穴の確認なども行う。また、術者の身体づくりとしてストレッチなども学ぶ。テーピングの初期段階として、キネシオテープまたはホワイトテープの比較的簡臨床で多用される部位のテーピングを学ぶ。</p>	1通	30	1				○	○			○	
○		総合実技Ⅱ	<p>手技実技ⅠⅡで学習したあん摩マッサージ指圧等の手技療法の復習や、授業では扱わなかった実技練習を行う。手技を行いながら、解剖学的ランドマークの確認や経穴の確認なども行う。また、術者の身体づくりができつつある中で、トレーニング方法なども学ぶ。</p> <p>2年次でのテーピングでは、総合実技Ⅰで学習したテーピングの復習と新たな部位等のテーピングを学ぶ。</p> <p>2年次では、3年次で行われる臨床実習等に向け、理学検査の演習や検査器具の使用など熟達を目指す。</p>	2通	30	1				○	○			○	
○		総合実技Ⅲ	<p>手技実技ⅠⅡで学習したあん摩マッサージ指圧等の手技療法の復習や、授業では扱わなかった実技練習を行う。手技を行いながら、解剖学的ランドマークの確認や経穴の確認なども行う。最終学年のため、患者様にトレーニング指導できることを目標とする。</p> <p>最終学年でのテーピングとして、これまでの総復習と臨床で使えるテーピングの熟達を目指す。</p>	3通	30	1				○	○			○	

○		総合学習Ⅰ	総合学習として、1年次の入学後から自分自身の将来を見つめて、鍼灸師としての方向性を意識づけることを目標とする。 ① 実践行動学Ⅰ ②基礎力検定 ③解剖見学 等々	1通	75	5	○			○	○		
○		総合学習Ⅱ	2年次の総合学習として、1年次で高めたモチベーションの維持と1年次では分からなかった専門的な知識も踏まえながら業界の現状を把握し、3年生の国家試験に向けて更に鍼灸業界への展望を強める。 ① 実践行動学Ⅱ ②各種検定 ③プレインターンシップ 等々	2通	80	5	○			○	○		
○		総合学習Ⅲ	3年次の総合学習として、社会人寸前の学生に対して教育として社会にでる心構えから今後の様々な可能性を学ぶ。最終学年として、最後のブラッシュアップを行う。 ① 実践行動学Ⅲ ②解剖見学 ③各種検定 等々	3通	90	6	○			○	○		
○		就職実務	3年次就職活動に向けて学習する。 ① 履歴書の書き方・御礼状の書き方 ② アポイントの取り方 ③ 面接時のチェック項目 ④ 求人票の見かた 等々	3通	15	1	○			○		○	
合計			56科目	2400単位時間(129単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
カリキュラムに規定する卒業に必要な単位をすべて修得すること。各科目試験において成績評価が「C」評価以上の評価を得ていること。各科目の授業時間数の3分の2以上の出席がされていること。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	18週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。